

問6

解答

問6	設問 1		設問 2		設問 3	
	a	b	c	d	e	f
	ウ	イ	エ	ウ	イ	エ

解説

- 設問 1
- a M1が予想以上に複雑であったということです。これは、事前の分析が不足していたからです。B社は、A社からシステムの概略機能の説明を受けて概算見積りを行いました。したがって、M1が予想以上に複雑であったことの説明として、“要件定義書を受け取った時点で契約時の概算見積りを見直さなかった”が適切です。
- b M2の操作性を一層高めたことはそれなりに評価されていますが、これが、遅れの原因になったわけです。これは、B社がA社の許可を得ないで勝手に行ったため、見積り時の工数が増えたからです。したがって、M2の操作性を一層高めたことの説明として、“設計作業の途中に、A社との調整を行わないで勝手に機能を広げてしまったので、開発規模が増大し、実際の開発期間が契約時の見積値を超えてしまった”が適切です。
- 設問 2
- c 生産データや品質データ、進捗データなどを定量的に分析することによって、作業内容や遅れの程度などを把握することができます。完成したもの、その完成度、作業途中のものなどとその進捗の状況から、さらに、遅れの出そうな作業、予定どおり進む作業などを把握することができます。したがって、“納期を2週間延ばしたあとの更なる遅れの発生”の状況を回避することができます。
- d 開発途中での仕様、スケジュール、変更管理などを進捗会議で検討することで、今、どのような作業を行っているか、仕様どおりか、スケジュールの変更は必要ないかなどの検討をすることができます。進捗会議でこのようなことを検討していれば、M2のように、よけいな作業をしていることも明確になります。さらに、仕様の変更が認められた場合、どの程度期間を延長したらよいかなども把握できます。したがって、“操作性を一層高めたことによるM2の納期遅延”を回避できます。
- 設問 3
- e M3とM2の合計作業時間を平均の算出式に代入して、平均作業日数を求めます。
- 平均作業日数 =
$$\frac{(20 + 16) + 4 \times (12 + 12) + (8 + 10)}{6} = 25 \text{ (日)}$$
- f 確率0.95なので、 $\mu \pm 2\sigma$ の範囲に収まります。表2から、開発全体の σ は2.2なので、 2σ は4.4です。したがって、平均作業日数 (μ) に対して、 $\mu \pm 2\sigma$ の範囲なので、最長所要日数は、平均作業日数に、“4.4”日を加えた値となります。